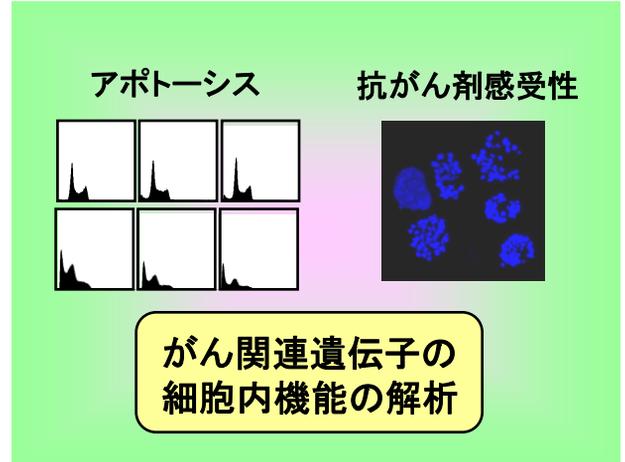
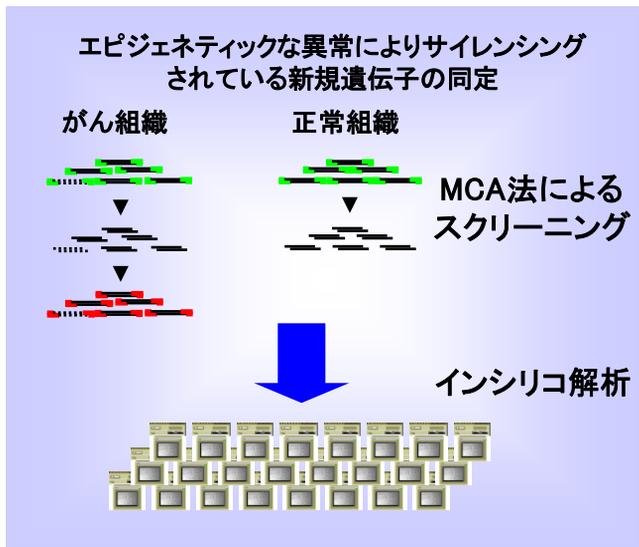


エピジェネティクスを標的とした診断・治療法の開発

生化学講座 教授 豊田 実

DNAメチル化をはじめとする、エピジェネティックな異常はがんにおける遺伝子不活化の分子機構として注目を集めている。我々は、DNAメチル化で不活化される新規遺伝子を同定し、がんの早期診断法の開発や再発の予測、抗がん剤感受性の予測への応用をめざし、研究を行っている。



当研究グループが同定したメチル化の標的遺伝子

細胞周期調節遺伝子

CHFR (PNAS 2003, Cancer Res, 2003)

アポトーシス関連遺伝子

BNIP3 (Clin Cancer Res, 2005)

WNTシグナル

SFRPs (Nat Genet 2002, Nat Genet 2004)

RASシグナル

RASSF2 (Gastroenterol, 2005)

腫瘍免疫

CIITA (J. Immunol, 2004, Oncogene 2004)

マイクロRNA

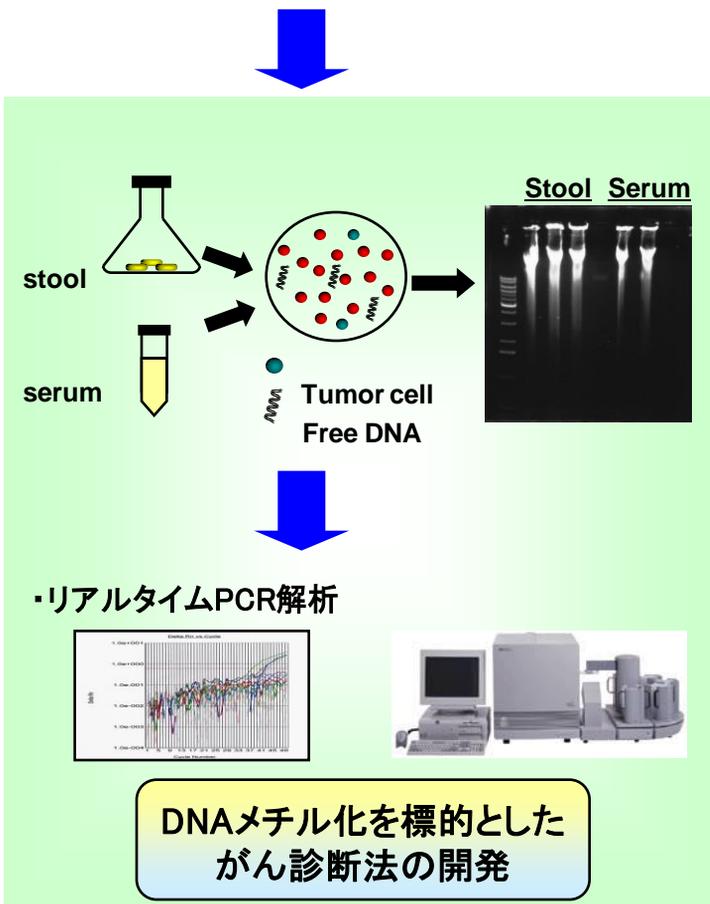
Mir-34b/c (Cancer Res, 2008)

関連特許

乳癌および卵巣癌の治療薬、検出方法ならびに検出用キット. 特願 2006-263232.

新規遺伝子ACMG1のメチル化を指標とする胃癌の診断方法. 特願 2005-220779.

(他5件)



連絡先 < 豊田 実、mtoyota@sapmed.ac.jp >